

# GPS測位の季節変動及び3.11地震に於ける異常変動

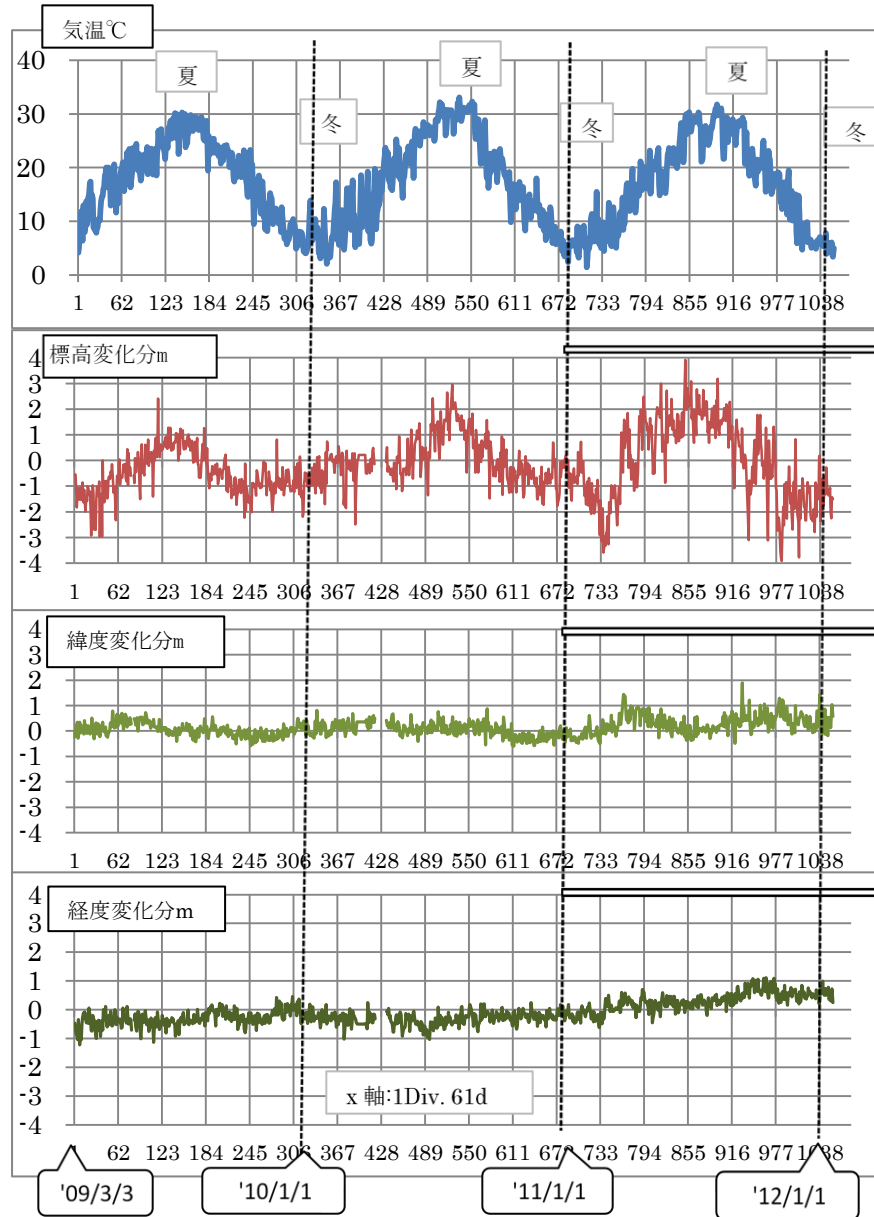
— 測位結果の変化分一日平均のプロット 換算値 —

時間軸：左図 '09/3/3, 右図 '11/1/1からの通日  
 気温：日の最低、最高の平均値 (出所 気象庁)

観測点： { 35° 46' 14.75"N  
 (松戸市) { 139° 54' 36.88"E  
 28.5mH }

Data Logger : DG-100 (Global Sat)

小野房吉



**\* 3.11地震前後の地殻の異常変動**  
 高さに定常的な季節変動に加え、地震前後に顕著な異常を観測した。しかし、平面(緯度・経度)には本震前、有意な変化は認められなかった。従来一部の官学民が信じた、海溝型地震発生メカニズム仮説によれば、今次の様な巨大地震では事前の地殻滑りが有るはずだった。しかし、これが無かったことは、この仮説の錯誤を明白にした。また、季節変動が観測されたことは過去、測地学が地球の長半径を定数(6378.137km)として扱ったが、これが定数でなく周期変動することも示された。異常は '11年11月半まで継続、今は平常に復したかに見える。以上の事実は、過去主張された大地震発生仮説の破綻及び地球物理学の未完を印象づける。  
 そこで、近未来に予想される東海、東南海、南海地震の予知には、自認専門家だけでなく、関心ある他分野の科学者の協力も得て、先入観無き新たな発想による地震学の構築こそ喫緊の課題と考える。

